

新燃岳 2018 年 3 月噴火に伴う噴出物調査

霧島新燃岳 2018 年 3 月噴火による火山灰について、3 月 6 日 14:00 から 3 月 8 日 16:00 にかけて噴出物調査及び採取を行った(図 1)。特に 3 月 6 日午後と 3 月 7 日午前には新燃岳から南～西方向で降下中の噴出物を直接採取し、明確な時間情報を持つ試料を得ることが出来た。その結果、少なくとも 3 月 6 日 14:10-14:40 の降灰には軽石質の良く発泡した粒子が含まれ、それは 3 月 7 日 11:10-11:30 の試料でも見られることが分かった(図 2)。軽石の噴出は、地下からのガスを含んだマグマの供給と、その比較的速い上昇を示すため、火山活動を評価する上で重要である。今後は解析試料を増やし、火山灰の変化から火山活動の変遷を調べる予定である。



図 1. 噴出物調査の様子. a) 霧島温泉郷(火口から南西に約 6 km)でのトレイを用いた降灰直接採取(3 月 6 日 15:00 頃). b) 火口から南南西に約 6 km のほとと霧島館で観察された噴煙 (3 月 6 日 17:00 頃). c) 火口から西南西に約 3.3 km の新湯入口で観察された粒径約 2 cm 程度の軽石. d) 火口から西に約 4 km の県道一号線沿いで行った降灰直接採取の様子(3 月 7 日 11:00 頃).

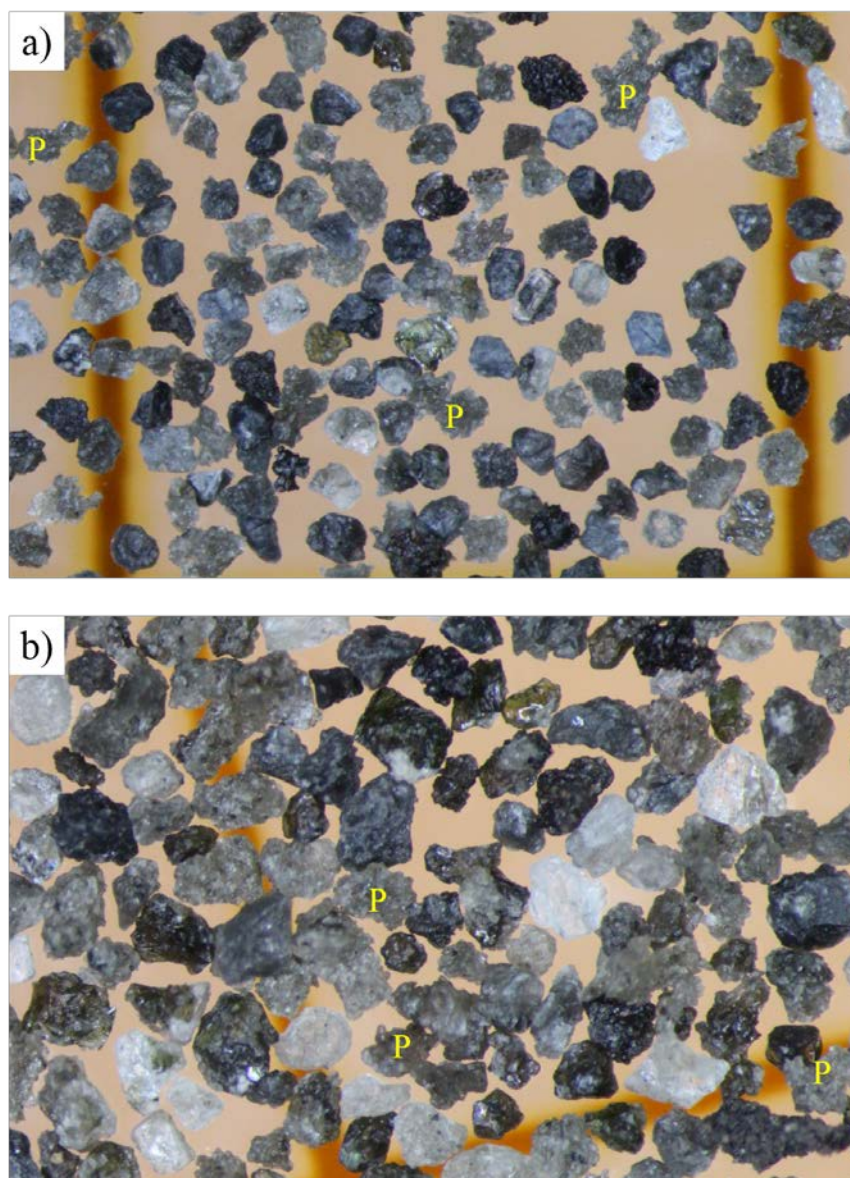


図 2. 火山灰の実体顕微鏡写真. 黄色字の P は代表的な軽石質粒子を示す. 写真の横幅は約 5.1 mm. a) 3 月 6 日 14:10-14:40 に火口から南西約 6 km の霧島温泉で採取された火山灰. b) 3 月 7 日 11:10-11:30 に火口から南南西約 6 km の持松地域で採取された火山灰.